

第43回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	令和6年12月10日（火） 午後2時30分～4時	
2	場所	蒲郡市役所 本館3階 303会議室	
3	出席者	委 員 愛知工科大学機械システム工学科教授	村上新
		委 員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授	松本幸正
		委 員 愛知運輸支局	宮川貴彰
			（代理 深谷俊之）
		委 員 愛知県都市整備局交通対策課	石屋義道
			（代理 吉野敬太）
		委 員 総代連合会会長	藤田幸三
		委 員 形原地区公共交通協議会	天野忠則
		委 員 東部地区公共交通協議会	横田幸吉
		委 員 西部地区公共交通協議会	永島幹啓
		委 員 三谷地区公共交通協議会	小田勝一
		委 員 大塚地区公共交通協議会	小林正敬
		委 員 西浦地区公共交通協議会	尾崎博敏
		委 員 塩津地区公共交通協議会	榊原関保
		委 員 蒲郡市身体障害者福祉協会	神田元治（欠席）
		委 員 蒲郡市老人クラブ連合会	鈴木香代子
		委 員 蒲郡市社会福祉協議会	鈴木良一
		委 員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	柴谷武志（欠席）
		委 員 NPO法人ブックパートナー	新井麻利子
		委 員 蒲郡市ボランティア連絡協議会	山本なおみ
		委 員 蒲郡市子ども会連絡協議会	坪井英幸
		委 員 蒲郡商工会議所	小澤素生
			（代理 青木宣貴）
		委 員 蒲郡市観光協会	杉山和弘（欠席）
		委 員 名鉄バス株式会社	後藤泰之
		委 員 豊鉄タクシー株式会社	長縄則之
		委 員 株式会社かねー自動車	黒木成美
		委 員 名古屋鉄道株式会社	高井勇輔
			（代理 丸山浩喜）
		委 員 公益社団法人愛知県バス協会	小林裕之
		委 員 愛知県タクシー協会	深谷克巳
		委 員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会	壁谷政志
		委 員 愛知県蒲郡警察署	松井晴一
		委 員 東三河建設事務所	奥谷敦史

委 員	蒲郡市長	鈴木寿明
委 員	蒲郡市市民生活部長	大森康弘
事務局	蒲郡市交通防犯課長	磯貝友宏
	蒲郡市交通防犯課係長	伴文明
	蒲郡市交通防犯課主事	石川雄策
地域公共交通計画推進事業受託事業者 三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社 ２名		

4 議題

(1) 開会挨拶

5 協議事項

(1) 地域公共交通確保維持改善事業補助金に係る自己評価について・・・【資料１】

(2) 塩津地区支線バス運行計画について・・・【資料２】

6 報告事項

(1) 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施結果について・・・【資料３】

(2) 東三河 MaaS「いこまい」実証実験について・・・【資料４】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

・ 出席委員が２９名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第７条第２項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており、傍聴を希望される方がいることが事務局より報告された。

(2) 議題

・ 開会挨拶

蒲郡市長より、塩津地区の支線バスについて、来年度中の運行開始を目指し、運行ルート・ダイヤについて検討を進めていただいております。事業計画の協議をお願いします。名鉄西尾・蒲郡線については、現在、令和８年度以降の運行継続の協議を関係者と進めており、上下分離・みなし上下分離などの運行手法を含め検討をしているところで、今年度中に方向性を示せるのではと考えています。通勤や通学、地域住民の足として、また観光客の移動手段として公共交通はなくてはならないと考えており、引き続き関係者の皆様とも連携して事業を進めてまいりたい、とのあいさつがあった。

・ 議長より本日の議事録署名人として２名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 地域公共交通確保維持改善事業補助金にかかる自己評価について

・ 事務局より資料１に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ PDCA で、何が問題と捉えているかが大事である。各地区でコミュニティバスを運行できることになったこと、たくさん色々な取り組みをしていただいていることは、国からも高く評価されていると思う。

一方で、収支率を達成できていないこと、一部では利用が伸び悩んでいることが課題である。資料 8 頁に、地域における利用促進について、広告収入の獲得拡大を目指すとしている。この法定協議会で皆さんに認めていただいたので、この 10 月から来年にかけて一生懸命取り組んでいくことについて確認しておきたい。事務局にて進めることもあるが、地域の皆さんと共に取り組むことなのでその点をお願いしたい。

- ・ また、路線バスネットワークの見直しに伴い、フィーダーの見直しを進めるとある。具体的にどんなことを想定しているのか、もう少し説明いただきたい。

(事務局)

- ・ フィーダーについては、路線等を変えていくことまではまだ想定していないが、現状の幹線をもとにフィーダーを作ってきているため、幹線をどのようなネットワークにしていくかとなったときには、それに合わせた形でフィーダー路線についても協議をさせていただければと思っている。

(委員)

- ・ 幹線の見直しの検討を進めると記述があるので、フィーダーも必要があれば調整をする、適切な調整が行われると理解した。
- ・ タクシーの利用が気になっている。コミュニティバスの運行が進んだことでタクシーの利用が減ったとすればよいことである。一方で、配車ができなかったことが増えていないか憂慮している。事業者側の現状について紹介いただきたい。

(委員)

- ・ 時間帯にもよるが断っているところはある。正確な数はわからないが、よくある状況である。
- ・ 時間帯や曜日にもよるが、概してそこまで不足しているとは聞いていない。
- ・ タクシー全体は徐々に回復してきているが、コロナ前の 8 割程度である。要望に応えられないときもあり、特に午前中で病院に向かうときなどに集中している。一方で昼間は車が余っている状態であり、全体でみて足りていないという状況ではない、時間帯の平準化をできるとよい。一部の時間帯が不足しているというのは今に始まったことではなく、コロナ前から同じである。

(委員)

- ・ 配車が断られた経験だけだと次も同じだろうとなってしまう。予約センター側の対応として、時間をずらすと予約が取りやすいと伝えることが利用の平準化をできないか。また、他市の事例を踏まえて、午後利用の割引率を上げるなど、タクシーチケットで利用の仕方を誘導できる可能性もある。

(委員)

- ・ 支線バスを運行しているが、支線バスについては、人件費や燃料代、タイヤなどあらゆるものの値段が上がっている。そうした物価高を考慮した上で収支率を考慮した方がよいと思う。

(事務局)

- ・ 収支率目標について、今は 10%としているが、計画の更新や見直しにおいて、適切な設定をしていくことが大事だと考える。

イ 塩津地区支線バス運行計画について

- ・ 事務局より資料 1 に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 形原地区との乗り継ぎにはかなりの時間を要すると思われる。三河鹿島駅の停留所で待つには、夏は日差しがきつく、冬は寒く、トイレもないため高齢者には厳しい。また、カインズまで行くにも便が悪い。

(事務局)

- ・ 形原地区との接続について、乗り継ぎ時間は長くなってしまっている。どこに時間を合わせるかということで、塩津地区での協議の結果として、鉄道と西部地区のダイヤに合わせることにした。

(委員)

- ・ 形原地区の支線バスの時間を延ばしてカインズまで乗り入れてもよいと思う。現状では、高齢者や形原地区のことが考えられていないのではないかな。

(事務局)

- ・ 三河鹿島駅の待合環境について、名鉄の土地になるため、名鉄蒲郡線の存続協議が整ってから考えていきたい。また、形原地区での延長等についても、地区で協議していただけるとよいと思う。

(委員)

- ・ 1 点目、火・木・金・土の運行曜日の設定についての理由を教えてください。2 点目、朝から夕方までの運行について市内 7 台目となり、事業者の対応が困難になることが予想されるが、対応できるのか気になっている。3 点目、休憩時間が 15 分あるが、他地区の状況を教えてください。

(事務局)

- ・ 1 点目について、本市最初の形原地区において、公民館、買物施設の休み等を考慮し火・木・土曜日でスタートした。2 地区目以降は乗り継ぎを想定し同じ運行日とし、途中週 4 日運行化で各地区での検討により金曜日が増えた。このため、各地区同じ運行日となっている。

3 点目について、休憩時間は他地区でも概ね 15 分ほどとなっている。

(委員)

- ・ 実態についてダイヤ通りに動いているか、休憩は取れているか。

(事務局)

- ・ 遅れて休憩時間が確保できていないという話は聞いていない。

(委員)

- ・ 運転手不足は変わらないが、ハイエースタイプはタクシー運転手でも運転できるた

め、急病などの際も代行が可能であり、なんとか対応できている。運行を受託できれば、運転手の採用を頑張りたい。

(委員)

- ・ 塩津地区の状況について、住民の声を含め改めて説明したい。市内最後の地域になったが、利用しやすいバスにしたいと考えている。鹿島の高台に居を構える人も多く、山間部に居住する人などから早く運行してほしいという声がある。昨年協議会が発足してから熱い議論をしてきて、運行ルートや停留所など概ね固まった。愛称の検討など進めながら、住民には今後の運行を PR していく。公共交通を利用して、他の地区へ行けるようにしたいという声もある。来年の運行に向けて準備を進めていく。

(委員)

- ・ 西浦と形原の接続地点ユトリーナでの乗り継ぎについて人数などはわかるか。

(事務局)

- ・ 乗換人数については把握できていないものの、乗換の需要については頻繁ではないが問い合わせ等がある状況である。西浦地区の利用者もユトリーナの乗降は多くなっている。

(委員)

- ・ かんだ整形外科の利用が多いので、乗り継ぎをユトリーナでするのは遠回りになる。最初は A コープまでという話もあったと聞くと、A コープでの接続ができれば年 10 回ほどの乗りこぼし回数も減るのではないかと思う。路線の競合があるとも聞いたが、利用を高めることを考えて進めていけば、数字は改善されていくと思っている。

(4) 報告事項

ア 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施結果について

- ・ 事務局より資料 3 に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

イ 東三河 MaaS「いこまい」実証実験について

- ・ 事務局より資料 4 に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

(5) その他

(市 長)

- ・ 塩津地区の計画を説明させていただいた。先行して進めていただいている地域の努力があって、7 番目ということになる。改めて、各地区で行われている努力に感謝申し上げる。

会議で指摘をいただいたように、常に PDCA、チェックがあり、変革を行う、市民の利便性をあげていく創意工夫を重ねていく、ということが大事である。

本日は、タクシー事業者の現状についても説明いただいた。素晴らしい地域公共交通になっていくように、引き続きご協力をお願いする。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議について、３月２６日１０時からを予定、正式な開催案内を後日送付するとの連絡を行い会議は終了した。